

936. 標数 p の係数体 = 於ける *Gruppenring*
ニツイテ I

大島 勝 (高知高校)

Dr. Breunmünd の *dissertation* = 於て、同
ジ表題、下 = 群 G' が π -*グループ*、 p -*gruppe* 及び G' の
Sylowgruppe が *normalteiler* たるトキ G' の
Gruppenring Γ の構造ヲ研究シ、*Sylowgruppe*
が *normalteiler* ナルトイフ假定ノ下ニ、 Γ が *Primär*
Zerlegbar たるタメノ必要 = シテ十分ナル條件ヲ得テキ
ル。

よ、証明ハ相當面倒ナルヲ *Brauer* の *modular*
darstellung の理論 = ヨリ簡單 = 証明出来ルカロシト思
ツテ少シ考ヘテキマシタ所、近着ノ *Annals* (Vol. 42. NO. 2)
ノ *Brauer* 及び *Nesbitt* の論文ヲ見テ、*Sylowgruppe*
が *normalteiler* トイフ條件ナシニ、一般ノ場合 = 於
テ Γ が *Primär Zerlegbar* たるタメノ必要 = シテ
十分ナル條件ヲ得タ。即チ

定理 I. 標数 $q = p^2 q'$ 、 $(p, q') = 1$ たる *Gruppe* G'
ノ標数 p の *Körper* = 於ける *Gruppenring* Γ 中 G'
が標数 q' の *normalteiler* ヲ持ツトキ = 限り *Primär*
Zerlegbar ナル。更ニ *Sylowgruppe* が *zyklisch*
ナル時且ツソノ時 = 限り Γ は *einreihig* ナル。

以下コノ定理ノ証明及び *Primär Zerlegbar* ナ

Gruppen ring, 表現の問題ニツイテ少シ述べサセテ頂キマス。

記号ハスベテ Brauer / 論文ニ従フ。即チ代數体 $K =$ 於ケル O_f / 既約表現ヲ

$$Z_1, Z_2, \dots, Z_n$$

トスル。コニ $= K$ 入 O_f / 絶対既約指標ヲ含ンテキルモノトスル。従ツテ K 入 O_f / 共軛類 $\mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2, \dots, \mathcal{S}_n$ / 個數ニ等シ。 p -regular Element ヲ含ム共軛類ヲ $\mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2, \dots$; $\mathcal{S}_{k'}$ トスルバ $K =$ 於ケル modular irreducible Darstellung / 個數ハ丁度 k' 個ヲ、ソレヲ

$$F_1, F_2, \dots, F_{k'}$$

トシ。 $F_{k'}$ = 對應スル直既約表現ヲ $U_{k'}$ ヲ表ス。又 $F_{k'}$ ($k'=1, 2, \dots, k'$) カ S 個 / Block

$$B_1, B_2, \dots, B_S$$

= 含メレタトスル。従ツテ Z_i ($i=1, 2, \dots, n$) $\in S$ 個 / Block = 含ケラレル。

[1] 定理 1, 証明。

Gruppen ring Γ カ Primär Zerlegbar ナルコトト各 Block B_α ガ又 Γ / $F_{k'}$ ヲ含ンテキルコトトハ äquivalent ナラレ。従ツテ 特ニ最初 / Block B_1 カ Einsdarstellung F_1 / ミヲ含ムコトカ g' カ位數 g' / Normalteiler ヲ持テ ナケラハ + Γ + 1。

(Brauer P.587)

即チ必要條件ナルコトハ含ツタ。 $\Gamma = O_f$ カ位數 g' /

Normalteiler g' を持つ G' の p -regular
 Element の全部よりなる F_k の個数 k' の g' -含
 まれてキル g の共軛類の個数 = 等しく、従って又 $g =$ 属
 スル g' の相似表現類 \bar{R}_k の個数に等しくなる (g' の位
 数 n が p と素なる故に相似表現類は Modular Darstellung
 = 移ってモ変らず)。故に F_k と $\bar{R}_k =$ ヨツテ
 一意に決定せらる。又 $\bar{R}_k =$ 對應スル $K =$ 於ケル g'
 の既約表現 $\{Z_\lambda, Z_\mu, \dots, Z_\nu\}$ とスルトキハ
 $\{\bar{Z}_\lambda, \bar{Z}_\mu, \dots, \bar{Z}_\nu\}$ ハスベテ既約成分トシテ
 F_k を持つ。

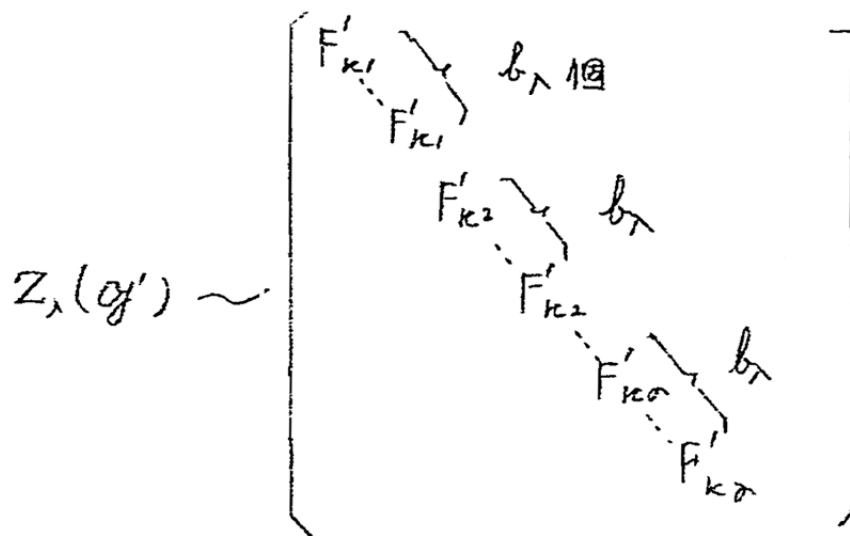
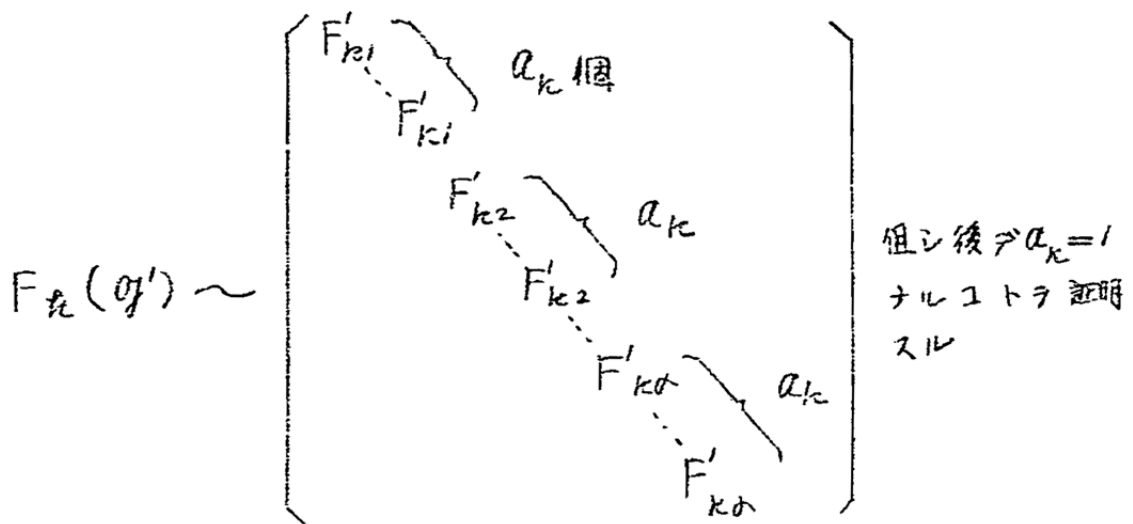
従って F_k を n 次元の Block を作ルカラ Γ は
 Primär Zerlegbar である。(コレが定理1の
 前半の証明の終つた、後半の証明の最後を証明してス)

上、對應を示せば次の如くなる。

$$\bar{R}_k \longleftrightarrow F_k \longleftrightarrow U_k \longleftrightarrow (Z_\lambda, Z_\mu, \dots, Z_\nu) \\
 \longleftrightarrow B_k$$

$\bar{R}_k =$ 属スル g' の表現 $F'_{k1}, F'_{k2}, \dots, F'_{ks}$
 とスレバ

- (1) K が定理を証明してオケバ、下ノ Körper $K =$ 於テモ
 定理1が成立スルコトハ準單純環ノ時ト同様である。
 コレハ einreihig の場合ニモ云へルコトである。



以上 = 依り次, 定理ヲ得ル。

定理 2. Primär zerlegbar + Gruppenring $\Gamma =$ 於テ $\Gamma = \Psi$, 完全可約表現 $W_1, W_2, \dots, W_r(\mathcal{O}')$, $W_2(\mathcal{O}')$ が äquivalent ナルトキ = 限り äquivalent ナラズ。

標数 0, Körper = 於ケル \mathcal{O}' , halblinéare Transformation = ヲル Darstellung, トキ $\in \mathcal{O}'$, 既約表現 ($\rho \cdot T = \text{ヨル}$) $\wedge \mathcal{O}'$ 相似表現類 = ヲツテ = 意的 = 決定サレル故、後ヲ述ベル如ク色々類似ノ定理ガ得ラレル。定理 2. ノ一例ナラズ。

(2) Primär zerlegbar + Gruppenring
 Γ 表現.

$\bar{r}_k =$ 属スルーツ表現 F_k , Charakter $\chi_{k_1}(G')$
 を表ハセバ, スベテ $g' \in G' =$ 対シテ

$$\chi_{k_1}(G') = \chi_{k_1}(P_j^{-1} G' P_j)$$

ヲ満足スルマウ + Sylowgruppe P , 元 $P_j \in P$,
 部分群 P_{k_1} ヲツクル. $\bar{r}_k =$ 属スル既約表現ノ個數ハ
 $(P : P_{k_1}) =$ 等シキ故

補助定理 1. $\bar{r}_k =$ 属スル既約表現ノ個數ハ $p^{a_k} (0 \leq a_k \leq a) =$ 等シ.

次ニ相似ナル表現ヨリ induzieren シタ g' 表現ハ
 äquivalent ナル故, $F_k \lambda$ ヲリ induzieren シタ
 g' 表現ハ U_k ト äquivalent ナラズ.

従ツテ U_k, F_k ノ次數ヲ U_k, f_k トスレバ

$$I. \begin{cases} U_k = f'_k p^a \\ f_k = f'_k p^{a_k} \end{cases} \quad \text{但シ } f'_k \wedge \bar{r}_k = \text{属スル表} \\ \text{現ノ次數}$$

定理 3. U_k, F_k ノ次數ヲ U_k, f_k トスレバ U_k, f_k
 ハイヅレモ g' ノ約數ナラズ.

$f'_k \wedge g'$ ノ約數ナル故明ラカデアラ.

定理 4. 既約表現 F_k ハ $\bar{r}_k =$ 属スル相似表現ヲ丁
 度ニツツツ含ム.

次ニ Cartan Invariants ノ作ル matrix ヲ
 考ヘルト (I) ヲリ

$$C = \begin{pmatrix} p^a & & & \\ & p^{a-d_1} & & \\ & & \ddots & \\ & & & p^{a-d_{k-1}} \end{pmatrix}$$

従って次に定理を得る。(Brauer P. 568)

定理5. α -type の既約表現の個数 g' = 含まれる g の共軛類で、その含む元の数が p の割り切れるものの個数 = 等し。

従ってすべて、既約表現が lowest kind となる g の g' = 含まれる g の共軛類の含む元の数が、すべて p の素数となるから g' の元はすべて Sylowgruppe p の元と kommutativ となる。故に p の g の normalteiler となる。又特 = 既約表現の次数がすべて 1 となる g の g' がアーベル群となるから g はアーベル群となる。

定理6. g が位数 g' の normalteiler g' を有する g の Sylowgruppe p が normalteiler となる g の g' の既約表現が lowest kind となる。従って $g = g' \times p$

定理7. $g = g' \times p$ として且つ g' がアーベル群となる g の g' の既約表現の次数 1 = 等し。

(g が normalteiler g' を有する g の g' の既約表現が lowest kind となることを仮定して)

定理6 が一般の場合に成立するかどうかはまだ未解決である。(Brauer P. 587)

(3) \mathfrak{g} の既約表現の Konstruktion.

ρ_k - 層スル \mathfrak{g} の既約表現 $F_k = \text{対シテ } \rho_k$
 ハ前ト同ジク

$$\chi_k(G') = \chi_k(P^{-1}G'P)$$

ヲ満足スル元 ρ ヲリ出来ヌ ρ / 部分群トスル。

$$\rho = Q_0 \rho_k + Q_1 \rho_k + \dots + Q_{i-1} \rho_k \quad (Q_0 = E)$$

トラバ

$$\mathfrak{g} = Q_0 \mathfrak{g}_k + Q_1 \mathfrak{g}_k + \dots + Q_{i-1} \mathfrak{g}_k$$

且ツ $F_k = \text{対シテ } \mathfrak{g}'$ / 元 $G' = \text{matrix } \nabla(G')$ が對應シ
 テキルトキ \mathfrak{g}_k / 既約表現ガ、 \mathfrak{g}' / 元 $G' = \text{對應スル}$
 matrix が $\nabla(G')$ + ル如キ ϵ / 有ラセツテ Σ_k
 トシ、 \mathfrak{g}_k / 元 $G_k = \text{對シテ matrix } W(G_k)$ が對應シ
 テキルトスル。勿論 G_k が \mathfrak{g}' / 元 + ルトキハ $W(G_k) = \nabla(G_k)$
 デアル。 Σ_k ヲリ induzieren シテ \mathfrak{g} / 表現ハ $F_k =$
 äquivalent デアル。

尚 $\text{halblineare Transformation}$ 又ハ $\text{Kollineation} = \text{ヨル } \mathfrak{g}$ / 表現 / トキ ϵ 大体 $\text{parallel} =$
 行クト思ヒマス。

$$\Sigma_k(\mathfrak{g}) : G \rightarrow \begin{pmatrix} W(Q_0 G Q_0^{-1}) & W(Q_0 G Q_1^{-1}) & \dots & W(Q_0 G Q_{i-1}^{-1}) \\ W(Q_1 G Q_0^{-1}) & W(Q_1 G Q_1^{-1}) & \dots & W(Q_1 G Q_{i-1}^{-1}) \\ \dots & \dots & \dots & \dots \\ W(Q_{i-1} G Q_0^{-1}) & W(Q_{i-1} G Q_1^{-1}) & \dots & W(Q_{i-1} G Q_{i-1}^{-1}) \end{pmatrix}$$

$$\begin{cases} \exists Q, G, Q^{-1} \in GL_n(K) \\ W(Q, G, Q^{-1}) = 0 \end{cases}$$

F_K 上 $\Sigma_K(\mathcal{O}) \cong \mathcal{O}'$, 元 = 数値スルモノヲ考ヘル
 心, äquivalent + \mathcal{O}' / 表現トナリ, F_K が既約ナ
 ルコトヨリ

$$F_K \sim \Sigma_K(\mathcal{O})$$

Gruppenring Γ が einreihig = ナルトキ / 事 = ツイ
 テハ次ノ機会ニ述ベマス。

尚 halblineare Transformation 又ハ
 Kollineation = ヲル \mathcal{O}' / 表現 / 時ニ大体 parallel
 = 行クト思ヒマス。 —以上—